



避難計画・避難行動の実効性検証

土砂災害警戒情報システム

オリコンサル

オリエンタルコンサル
タンスは、18年6月25日
に奥多摩町で実施された
土砂災害を想定した庁内

での情報伝達訓練の支援
に引き続き、9月20日に
奥多摩町と奥多摩町国民
健康保険・奥多摩病院と

の情報伝達訓練、並びに
同病院における垂直避難
訓練Ⅱ写真Ⅱの支援を行
った。

17年に改正された土砂
災害防止法では、要配慮
者利用施設での避難確保
計画の策定と避難訓練の
実施が義務付けられた。

これに対して、奥多摩町
には奥多摩町国民健康保
険・奥多摩病院のほか、
約900か所の土砂災害
警戒区域内に要配慮者利
用施設が13施設あり、今
後、これらの施設での避
難確保計画の策定と避難

訓練の実施が必要となっ
てくる。また、奥多摩町
は、高齢化率が約50%と
高いため、住民への土砂
災害に対する避難情報の
提供が重要な課題となっ
ている。

これらを背景に、同町
と同社は、気象予報会社
のハレックスとの協働に
よる社会実験として、「土
砂災害警戒情報システ
ム」を今年4月から導入
し、住民の避難誘導に関
する情報提供の支援を行
っている。同システムは、
土砂災害ハザードマップ
に気象情報を重畳させ、
6時間先の降雨予測と土
壌雨量指数を提供し、「い
つ頃、どの地区が、どの
程度、土砂災害の危険性
が高まるか」を「見える

化」したもの。

今回の訓練では、奥多
摩町と奥多摩町国民健康
保険・奥多摩病院との情
報伝達を実施した後、同
病院における車椅子を用
いた垂直避難をミライロ
の協力のもと実施し、情
報伝達および垂直避難行
動の実効性について検証
した。

今後、オリエンタルコ
ンサルタンスは、今回の
訓練で得られた情報伝達
や避難誘導における知見
を踏まえて、要配慮者利
用施設での避難確保計画
の策定と避難訓練の実施
に対する支援を展開す
る。さらに、より効果的
な避難情報の提供ができ
るよう、防災行政の支援
に取り組む。